ひと・まち、ゆめ・みなと

翔く留萌 21

みんなで創る
新しいマチ

健康家族は しあわせ家族

3

保険・医療・福祉
の総合的なサービス

いつまでも幸せな人生を家族とともにおくりたい。それは私たちみんなの願いだと思います。「超高齢化社会」を向かえ、現代は、「人生80年時代」と言われています。しかし、科学や医療技術が発達した現在でも、ガンや心臓病、脳卒中などの生活習慣病で命を落とす人も少なくありません。また、急激に変化する社会情勢の中で、新しい病に苦しむ人々も多く、新たな問題を生み出しているのも事実です。

留萌市においても、ストレスによる心身症やぼけ、寝たきりの介護の問題、生活習慣病の低年齢化など深刻な問題を抱えている家族が増えています。

留萌市ではそんな悩みを抱えている市民のために、保健・医療・福祉の総合的なサービスを提供できる「快適都市」をつくります。

健やか福祉センター（仮称）

どんな施設ですか

■廊下から部屋への段差をなくしました。

■玄関前はロードヒーティングになっています。

■土足で入館できます。

■エレベーターは車椅子、視聴覚障害者が利用できます。

■館内の壁には手摺りを付けてあります。

どんなサービスを受けれますか

〈保健部門〉

■内科診察室では、4ヵ月児・9ヵ月児・1歳6ヵ月児・3歳児と成人の健康診断を実施します。

■歯科診察室では、歯科検診フッ化物塗布、サホライド等の虫歯予防を実施します。

■多目的ホールでは、各種健康診断のほか、体力測定・指導教室と健康づくり講演・研修会、軽スポーツなどに利用できます。

■調理実習室と栄養相談室では、生活習慣病予防や家庭での健康づくりのための調理実習・指導教室や、妊産婦・乳幼児を対象とした学級活動等を行います。

■健康相談室と母子相談室では、市民の健康相談や、乳幼児の子育て相談を行います。

■機能回復訓練室では、脳卒中、虚弱者の日常生活復帰を図るため、理学療法士や作業療法士による機能回復訓練も行います。

〈福祉部門〉

■デイサービスセンターでは、在宅で寝たきりの高齢者やからだの弱い高齢者の方々に、日帰りで入浴や昼食、レクリエーションなどで1日を過ごしてもらいます。

■在宅介護支援センターでは、在宅高齢者や障害者の介護に関する相談や支援、介護機器の紹介をします。

■高齢者教養娯楽室・リラックスルームでは、囲碁や将棋、舞踊、カラオケなどを通じて交流できる場となっています。

■点字図書・録音室では、ボランティア団体によって点字の図書や録音テープを作成し、視力障害者への情報提供を行います。

健やか福祉センター（仮称）
完成予想図

保健

健康づくり

■健康診断や健康教育、健康相談、栄養相談などの充実を図ります。

■母子保健事業の効果的な実施を図ります。

■食生活改善推進協議会との協議活動により、健康づくりのための食生活改善の輪を広げます。

■脳卒中などの機能回復訓練事業をすすめ、在宅での支援体制を充実させます。

■健やか福祉センター（仮称）が平成11年に完成します。市民の皆さんが心身共に、健康で安心して暮らせる、豊かな施設づくりをすすめます。

医療

患者へのサービス

■平成13年度に市立総合病院が完成し、地域医療の中核病院としての役割を果たしていきます。

■患者へのきめ細かいサービスと質の高い医療を目指します。

■現在11の診療科目に「形成外科」を新設しました。

■医師の充足、看護体制のレベルアップ、医療機器の整備、救急医療体制、在宅医療などの診療体制の充実を図ります。

■道立高等看護学校の設置に伴う検討経費が、北海道の予算に計上されましたので、今後は早期実現に向けて努力します。

福祉

希望と生きがいの福祉づくり

■健やか福祉センター（仮称）の完成とともに、デイサービスセンターと在宅介護支援センターがそれぞれ市内2箇所に増えます。

■介護や援護を必要とする高齢者のニーズに対応した総合的なサービス提供を図ります。

■平成12年4月1日から始まる介護保険制度の導入に向け、本年度は対策費（400万円）を盛り込み、要介護認定等の試行を行い、実務上の課題等を調査研究し、制度の円滑な運用を図ります。

■障害者保健福祉計画をつくり、障害のある人が地域で安心して暮らせる、まちづくりを推進します。

■本年度は、新たに身体障害者ホームヘルプサービス事業委託料（1、614、000円）を盛り込み、高齢者と同様、障害者に対してのホームヘルプサービス事業を充実します。

■精神障害者地域作業所員の交通費を引き続き助成し、障害者の社会参加を支援します。

■障害者が持つ悩みや意見、要望など、各分野の相談に応じられる「総合相談窓口」を設置します。

いつまでも
健康で明るい社会